

## 気がつけば鹿児島

text : Takaki Yoshioka, photo : Eiji Kitada

鹿児島に移る前、大阪にいた頃も住宅に関わる仕事をしていましたが、『自分の欲しいと思える家』と『お客様に勧めないといけない家』のギャップが徐々に開いていった10年間でした。お引渡しの度に喜んでいただくお客様の笑顔がちょっとつらく思えた頃、シンケンとの出会いがあったのです。あるお客様から「吉岡さんには悪いがOMソーラーの家に住みたい」と言われ、「OMソーラーって何だ?」というレベルで調べ始めたのがきっかけでした。そのうちすぐに鹿児島のシンケンという会社が特にすごいということがわかりました。当時はシンケンのホームページはまだ無かったので情報収集は建築雑誌の特集記事とニフティサーブ(当時パソコン通信と呼ばれた)のフォーラムが主な手段でした。思い起こせば今と違って格段に情報は少なく、私にとってシンケンは一ミステリアスな存在でした。調べれば調べるほどにその凄さは住み心地にあることが感じられ、最初は競合対策のつもりがいつの間にか個人的なあこがれに変わっていました。そんな時、夏休みに鹿児島の実家に帰省した際、義父が「カッコいい家のチラシが入ってたので取っという」とシンケンのチラシをタンスから出してきました。(写真はそのチラシに使われていたものです)翌日に当時の与次郎のモデルハウス(現在は建替え済み)を見学、その後たまたま何軒かの完成見学会の建物も見るチャンスがありましたが、その際モデルハウスより実際のお客様の家の方がずっとクオリティの高いものに見えたことは衝撃でした。

「こんな住まいづくりが自分の仕事としてやれたら幸せだろうなあ」と思った瞬間です。その後、その『あるお客様』はOMソーラーをあきらめて私の会社に注文していただきましたが、私自身は鹿児島のシンケンに入社することに…でも『あるお客様』は、私の身勝手にとがめることなく、とても喜んで激励してくださいました。時は流れてあれから10年…ずいぶん多くの情報が手軽に得られる世の中になりましたが、情報の質そのものはそれほど変わっていないように思います。とりわけ住まいづくりに関しての情報はつくり手側が自分達の都合のよい情報をどんどん流し続けているだけで、本当に住まい手の求める暮らし目線の情報が足りないと感じています。そう思いませんか?

### 吉岡孝樹(株式会社シンケン)

1964年大阪生まれ。大阪の私立大学の電気工学科・アパレル会社MD・総合不動産会社のインテリア・注文住宅部門を経て現職。妻の帰省先だった鹿児島で目の当たりにしたシンケンスタイルの大ファンになってしまい、気がついたら社員に。鹿児島島に移り住んで10年目、シンケンの住まいに住み始めて7年目。シンケンのホームページで住まい手目線のコラム「家づくりの玉手箱」を公開中(毎週月曜更新)

株式会社シンケン  
〒890-0056 鹿児島市下荒田4-49-22  
TEL 099-286-0088  
FAX 099-259-8088  
URL <http://www.sinkenstyle.co.jp>



左記内容の「カッコいい家のチラシ」のビジュアル、1998年完成の「霧島高原の家」(撮影:北田英治)